

釧路の看護専門学校 受験者増

労災と孝仁会 私大と連携 併修制度が奏功

市立高等看護も検討開始

地域医療の担い手を育成する釧路市内の二つの看護専門学校で、減少傾向にあった受験者数が今年、ともに増加した。釧路労災看護専門学校と釧路孝仁会看護専門学校で、それぞれ道内外の私立大と連携し、大学の学位取得も可能な併修制度を導入したことなどが奏功した。大卒資格を取得したい進学希望者の需要があるとみて、市内の他の看護専門学校も同制度の導入を検討している。

釧路労災で今年の受験者数は49人と、前年から12人も増えた。入学者は35人で、定員（30人）を満たした。釧路孝仁会でも今年の受験者数が25人と前年から2人増えた。推薦入試の合格者を含めた入学者は18人と、定員（40人）には満たないものの前年の9人から倍増した。受験者が増えたのは釧路労災が2年連続、孝仁会は8年ぶり。

受験者増加の要因になったとみられるのは併修制度。両校は今年の入学者から同制度を取り入れた。北海道学事課によると、道内の看護専門学校で大卒資格を取得できるようにするのは両校が初めて。

釧路労災では星槎大（横浜市）の講義をオンラインで受講し、専門学校卒業後、最短1年で大卒資格を得られる。孝仁会は日本医療大（札幌）と協定を締結。看護学校に新設した専攻科に進んだ場合、専門学校で取得した単位の一部を同大の単位に算入して、オンライン講義で大卒資格の取得を目指す。

釧路労災の担当者は「前年より18歳人口が多いこともあるが、ダブルスクール制（併修制度）の反響があったのではなか」とみる。孝仁会の担当者は、併修制の導入に合わせて専門学校の授業料を年間110万円から90万円に抑えたほか、「ラジオでのCM放送とポスター掲示場所の拡大で、社会人向けにも広報を強化した」と話す。

市内では、市立高等看護学院も大学に編入学する卒業生が多いことなどを受け、大学との単位互換制度の導入について検討を始めた。開始時期や



内容は未定。担当者は「学生の学びの幅を広げ、選択肢を増やし、キャリアアップにつながれば」と話している。

（三島七海）